

とことん楽しみ、とことん 学び、とことん繋がろう！

国際第4委員会 委員長

橋元 達也氏

(所属：サッポロビール株式会社)



interview

自己紹介

博士課程卒業後、電機メーカー知財部でキャリアをスタートさせるも、2017年に夢を追求めて知財の世界を抜け出し、ベンチャーの世界に飛び込む。2020年に現所属へキャリア入社して再び知財の世界へ。

2021年度よりJIPA国際第4委員会に所属し、2024年度から現職。趣味はクラフトビールで飲み会でも基本的にビールをひたすら飲み続けます。最近体重が増えてきました…。

Q 研究テーマとそれらを選んだ背景・理由は？

2025年度の研究テーマは以下になります。

第1小委員会：ASEAN-6における知財リスクの把握と権利活用の実態に関する調査・研究

第2小委員会：インドネシアの2024年法改正に関する調査

第3小委員会：インド特許出願における明細書の最適化

国際第4委員会では、委員メンバー募集時に希望した調査研究テーマを基に、4月度のキックオフにあたる委員会にて各委員メンバーと議論をして決めます。2025年度においては、委員メンバーが電気・機械・自動車関連の企業所属の方が多いこともあり、事業を行っているASEAN-6やインドを対象に、各委員メンバーの興味関心事からテーマが決まりました。

なお、国際第4委員会の調査研究の対象としては、基本的にインド・ASEAN・中東・オセアニアなどの45か国の特許制度（小特許含む）が中心になります。調査研究においては、実務者視点と運用実態にとことんこだわった情報発信や課題提言を意識し、調査研究の成果を論説にまとめるだけでなく、外国特許庁との対談での意見発信やJETROとの意見交換も積極的に行っています。また、調査対象の国については、中々インターネットだけでは得られない情報も多くあり、現地に調査団を派遣して新鮮な情報を取ってくることにこだわっています。

Q 委員会の特長／魅力は？

国際第4委員会の特長／魅力を一言で表すと、「とことん楽しみ、とことん学び、とことん繋がること」にあると考えています。

まず「とことん楽しむこと」について、先ほども少し触れましたが、私たちが調査対象としている国については、情報を取得するだけでも難しいことがあり、調査研究をどうやって進めていくべきか悩んでしまうこともあります。しかしながら、その逆境を楽しみながら委員メンバー同士で協力し合い、困難を乗り越えて調査研究を推進しようとする姿勢が国際第4イズムとして脈々と受け継がれています。

続いて「とことん学ぶこと」について、国際第4委員会では、各委員が講師となり、開示できる範囲で自社の知財活動について



講義を行う「学びの時間」を委員会活動の中で設けています。これは、調査研究による知識のインプットだけに留まらず、知財パーソンとしての気づきや学びにつなげていただき、自社での知財実務・活動に活かしてもらうことを目的に行っています。

最後に、国際第4委員会では、委員会活動を通して様々な人々と「とことん繋がること」を大事にしています。現役委員メンバーだけでなく、OB/OGの方々とも積極的に交流を行える場を企画しており、2023年度では国際第4委員会設立10周年ということで全てのOB/OGの方々にお声がけを行い、交流するイベントを開催致しました。また、JETROなど関係機関とも積極的に意見交換を行ったり、交流したりする機会を設けています。

このように、国際第4委員会は楽しく学んで人と繋がっていくことを大事にしている委員会です。もし知財実務の中で、インド・ASEAN・中東・オセアニア諸国を担当している、または、担当する予定がありましたら、国際第4委員会への参加を是非お待ちしております！

Q 委員会としてのこだわりは？

国際第4委員会の特長／魅力にも繋がることですが、国際第4委員会では、単に調査研究を行って成果物を出すだけでなく、委員会活動の中で講師をする機会を設けたり、対外的に意見発信を行う場で発言いただいたりなど、知財パーソンとして成長する機会を提供することを大事にしています。

また、我々の活動では、これからさらに知財制度が発展していく可能性を秘めた国々の方と対話する機会も多く、そこで円滑にコミュニケーションを取っていくために、一度相手の立場に立って物事を考えてみるという「敬う心」を持つことを徹底しています。これは国際第4イズムの一つではありますが、この「敬う心」は、昨今様々なステークホルダーと会話する機会が多い知財パーソンとしては重要なマインドかと思います。

その他にも国際第4イズムはいくつかありますが、受け継がれてきた考え方については、これからも引き続き大事にしていきたいと思っています。